

2019年度

No10 12月9日

松 籟



発行者

穴水秀人

## 人はなぜ学ぶのか？

12月に入り、2学期末到達度検査も終わり、冬季休業が間近に迫っています。2学期は、実りの学期と言われるように、たくさんの行事を経験し、多くの成果を得ることができました。ひとつの行事を終えるたびに精神的に成長していく（大人になっていく）姿から、今後更に飛躍するであろうことを実感することができ、心から嬉しく思います。

さて、令和元年（平成31年）が終わろうとする節目を迎えるにあたり、表題について少し考えようと思います。この疑問は、生きていく上で誰もが持つものであり、私も当然例外ではありません。実際、そんなに勉強しなくてもそれなりに生きていけることも事実です。お金さえあれば、スーパーやコンビニで食べ物や日用品を手に入れることができます。お釣りを間違えないような算数の計算ができれば、何とかなるであろうことは、安易に予想できます。であれば、何のために学ぶ必要があるのでしょうか。

ここで、3年生で実施する修学旅行に関する学習を題材にして、学ぶことの意味を考えたいと思います。初日に広島へ出向きます。知っての通り、広島は原爆（原子爆弾）が投下され大きな被害を受けました。何も知らずに、原爆ドームを見たり記念館に入っても、「ふーん」で終わってしまいます。そうならないために、私たちは、戦争の歴史や被害の規模、様子などを事前に学習しておきます（**知識の習得**）。なぜなら、何も知らないよりいろいろなことを知って見学した方が、目の当たりにしたときに、より興味深く見学でき、大人になっても記憶に残るからです。中には、その被害の大きさと悲惨さに衝撃を受け、「原子爆弾には、なぜそれほどまでに破壊力があるのか？」という疑問から、その仕組み（原子については2年生理科の学習内容）を知りたくなる人もいるかもしれません（**知識の活用**）。さらには、「平和とは何だろう？」「平和に暮らすために、自分には何ができるのだろうか？」といった思いを生涯持ち続ける生徒もいるかもしれません（**思考の深化、探求**）。

人が学ぶ理由は人それぞれだと思いますが、今、私から言えることは、「知識があると、出会いが広がり、さらに深まり、自分の人生を面白くさせることができる。」ということです。逆に知識がないと、目の前の事象（含 これから自分に訪れるであろう事象）が、ただ無意味にすれ違ってしまう可能性が大きいということです。

今、社会人として働いている方々の中で、「もう一度学校教育を学び直したい。」という思いから、夜間中学校に通学している社会人が、全国で年々多くなっているのも事実です。幸いなことに、今、生徒たちは、その機会の真っ只中にいます。新年を迎えるにあたり、「学ぶことの意味」を一人ひとりじっくりと考えてみてはどうでしょうか。